

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900409		
法人名	医療法人清和会		
事業所名	グループホームふれあい三野		
所在地	徳島県三好市三野町加茂野宮1551番地2		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自身の家で暮らしているようなリラックスした雰囲気作りを心掛けています。また畑が敷地内にあり、苗植えや雑草処理、収穫などを生活に組み入れることで、四季を感じ生きがいのある暮らしができるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、南向きの高台に位置し、季節の移り変わりを楽しむことができる環境にある。共用空間は、2つのユニットを区切らず開放し、利用者間で会話や趣味活動を自由に楽しむことができるようにしている。理念として、“ほほえみ豊かな幸せ家族”を掲げ、利用者が住みなれた地域で自然な笑顔で過ごすことができるよう支援に努めている。食事は、三食事業所内で調理している。調理の音やにおいから、家庭的な雰囲気を感じることができる。利用者と一緒に育てた菜園の野菜を取り入れるなど、食事を楽しむことができるよう支援している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、地域から事業所の運営に関する意見等を取り入れることができるよう工夫している。また、閉鎖的な環境とならないよう、安全面に配慮しつつ、馴染みの場所にてかける取り組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念・三訓を唱和し、スタッフが同じ意識の下でケアを実施することが出来るように努めている。	事業所では、地域密着型サービスの意義・役割を踏まえた理念を掲げている。朝礼時に、理念を唱和し、職員間での共有化を図り、日ごろの実践に繋げている。また、パンフレットにも理念について記載し、利用者家族や地域等に向けて広報・周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナが蔓延し、地域との交流が出来なかった。	事業所では、地域のボランティアや児童等の来訪を受け入れるなど、日常的に地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、安全面に配慮しつつ、阿波踊りボランティアの来訪を受けたり、関係機関に書面を配付したりして、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防のため、広報誌を地域に配布するのみ行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や、ご家族、包括支援センターの皆さまにオンラインで参加していただき運営委員会を行った。様々な意見をいただきサービス向上に活かした。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、書面会議を実施している。議事内容について、事前に委員に伝えとともに、収集した意見を会議録に記載するなど、双方向的な会議となるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ふれあい三野新聞を発行することにより、当施設の取り組みを報告し、より密接に関わってゆける関係性になるよう努めている。	管理者は、定期的に、市の担当窓口を訪問し、実績報告等行っている。随時、メールや電話等により、困難事例等について相談し、助言を得ている。また、行政が開催するオンライン研修に参加するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や身体拘束廃止委員会にて身体拘束に関する知識と廃止への意識付けを行っている。また、委員会では定期、随時に身体拘束廃止への話し合いを行っている。	事業所では、毎月、身体拘束廃止委員会を開催したり、年3回、拘束に関する勉強会を開催したりして、身体拘束の内容や弊害等について、職員間で共有化を図っている。車イスの座面等を工夫するなど、利用者の心身状況に配慮し、拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的勉強会を開催しスタッフに虐待についての勉強の機会を設けている。勉強会資料は全員に配布し虐待についての意識向上を図っている。入社時のオリエンテーションでも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い最新の法制度について勉強する機会を設けている。後見人や保佐人と緊密な連携をとるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者様とご家族様に対して契約内容の説明を行っている。介護保険制度が改正した際には説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の連絡を意見交換の場としている。利用者様には日常生活においても常に要望を気軽に伝える事が出来る環境作りを努めている。また、意見箱を設置し幅広く意見が集まるようにしている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を確認している。家族等からは、面会時に声をかけたり、SNSを活用したりして、意見を出しやすいよう努めている。出された意見等について、職員間で協議・検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティングにて、スタッフの意見を吸い上げて返答し反映させている。良い意見は管理者より経営者に相談し施設運営に反映させている。	管理者は、日ごろから、職員が意見や提案等を出しやすい関係づくりに努めている。年1回、個別面談を行うなど、意見を出すことができる機会も設けている。出された意見等をもとに、備品整備を行うなど、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職とスタッフが面談し、業務上生じる悩みや職場環境の改善について話し合う機会を設けている。また、週一回のミーティングでも職場環境についての意見を吸い上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を行ったり、法人内外の研修に参加することでスキルアップの機会としている。また、外部研修には補助制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で施設連携会議があり、そこでの情報共有や課題の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて本人様やご家族様への聞き取りを行い、入居後の生活についての不安を取り除くよう努めている。また、入居後は介護支援専門員と担当スタッフによりニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員を中心に、ご家族様と共に入居者の支援をしていくとの意識の共有を図り些細なことでも話せる信頼関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった時点で入居者様の身体・精神状態の把握に努め、管理者と介護支援専門員を中心にどのような支援方法やサービスが望ましいか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と世間話や昔話をする時間を持つなど、スタッフは意識をして入居者様とのコミュニケーションを図り感情の共有やニーズの把握に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当スタッフから買い物や、散髪、衣類の購入の為にご家族に連絡する際に、入居者様の最近の様子や生活状況をお伝えしている。ケアプラン作成時にご家族の意見を取り入れるよう情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様とご家族の手紙のやり取りなどの補助を行ったり、ドライブバスにてなじみの場所の景色を楽しんで頂いた。	事業所では、感染症の流行下においても、ガラス越しでの面会を行うなど、利用者の馴染みの関係性を大切にしている。随時、地域の理・美容院の来訪も受けている。また、利用者の馴染みの場所までドライブに出かけるなど、馴染みの場との関係継続に向けた支援にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや雑談など入居者様同士のコミュニケーションを大切にしている。また、畑仕事や洗濯など生活の場で入居者様同士が積極的に関わる機会があり、スタッフは交流を支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居者様とご家族が落ち着かれるまでは、相談に応じメンタルのケアや実生活での不安の解消に努めている。また、退所後の利用機関にも利用者の同意を得て情報提供が出来るようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活や生活歴を入居者様とご家族から聞き取りする。また、日頃のご様子からその方の意思や意向を推測しケアに当たっている。その情報はスタッフで共有し対応している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、会話や表情等から本人本位に検討している。把握した情報は、職員間で共有化を図り、サービスの質の向上に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や契約時などのご家族様からこれまでの生活状況を情報収集している。また、利用機関があればそちらからの情報も同様に収集しケアに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活の情報はカルテに記載し全スタッフが把握し共有できるようにしている。朝礼や終礼、ノートで申し送りを行い共通理解の下で支援できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様とご家族とのコミュニケーションの中で得た情報で御本人が望む暮らしを提案し、それをケアプランに盛り込むよう努めている。また、その計画はご本人やご家族に説明し理解・同意を得ている。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画を作成している。随時、看護師や理学療法士等、専門職からの助言も得ている。定期的に、目標を見直す際は、利用者のできることを大切に捉えている。また、随時、状況の変化に応じた見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の情報は昼夜共カルテに記載し全スタッフが把握し共有できるようにしている。またケア会議にも材料として用いている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様とご家族の状況に応じて、送迎や通院などの対応を行えるような体制をとっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流は出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		入居者様やご家族の希望の病院に受診できるように支援している。入居前に協力病院への通院の希望があればかかりつけ医からの引継ぎを支援している。	事業所では、利用者一人ひとりの希望にそったかかりつけ医の受診を支援している。週1回、協力医療機関からの訪問看護や理学療法士の来訪がある。夜間・緊急時等の対応体制も整備し、利用者が適切に医療を受けることができるよう支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		週一回の訪問看護で看護師と連携し健康管理や異常の早期発見が出来るようにしている。また訪問看護での内容を全スタッフが共有できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入院時の情報提供はもとより入院中も病院と連携し状態把握や入居者様やご家族の相談に応えることができるようにしている。また、病院関係者とも密に連絡しスムーズな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		入居時に重度化に関する施設の指針を説明。また重度化が進行した場合、ご本人やご家族の意向に沿った最善のサポート体制がとれるようにしている。	事業所では、入所時の段階で、重度化や終末期における指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、家族等に意向を確認しつつ、関係機関と方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		緊急時対応マニュアルをもとに勉強会を行うとともに、応急処置や緊急時対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		災害対策マニュアル、災害時BCPを作成し定期的に災害訓練を行っている。また、消防署と連携し、初期消火や災害時の対応、通報装置について学んでいる。	事業所では、年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の消防署の協力を得て、初期消火や通報装置の使用など、具体的に取り組んでいる。また、備蓄品やマニュアル等も適切に整備しているが、地域住民や関係者等との協力体制を整備するまでには至っていない。	今後は、訓練時に、災害時における地域協力等の重要性を踏まえ、地域住民や企業、関係団体等に声をかけるなど、より実践的な協力・支援体制の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、居室内やトイレ、入浴などは特に他者の目がふれないように気を付けている。また、プライバシー保護について職員同士で話し合う機会を設けている。	事業所では、定期的に、プライバシーや個人情報保護等に関する研修会を開催し、職員間での周知・理解を図っている。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アットホームな雰囲気づくりを行い入居者様が希望や要望を伝えやすい環境になるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームならではのゆったりとした時間の流れがあり、入居者様がそれぞれのペースで生活できる空間づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各担当者が中心となって入居者様の好みやご家族から以前に使用していた衣類などを持参して頂き、身だしなみを楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様がいらっしゃる目の前で調理をする事により調理に参加して頂く雰囲気づくりを心掛けている。食事も個々の好みに合わせアレンジをくわえて楽しんで食べて頂けるようにしている。	食事は、法人の管理栄養士が作成した献立をもとに、事業所内で調理したものを提供している。調理の風景やにおいなど、家庭的な雰囲気を感じることができるようにしている。菜園で育てた野菜を活用したり、利用者と一緒におやつを作ったりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立で栄養バランスは保っており、食事摂取量や水分量、体重の変化などを記録し、主治医とも連携し個別の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行っており、その方の状況によりスポンジブラシを使ったりしている。また、夕食後に入れ歯の洗浄を行い清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況や尿量、排泄パターンに応じた個別のケアを実施しており、身体の変化や残存能力の変化に応じた排泄ケアの見直しや改善を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。パターンに応じて、できる限りトイレで排泄することができるよう支援している。夜間についても、職員間で情報共有しつつ、本人本位の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表の活用や1日の活動量を増やし自然排便ができるようにサポートしている。それでも排便が難しい方は主治医と連携し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入所者様一人一人の希望を聞き1週間単位のスケジュールを組み入浴を行うようにしている。	事業所では、季節に応じて、週に2~3回入浴できるよう支援している。利用者一人ひとりの意向に応じて、機械浴の活用や同性介助を行うなど、羞恥心や不安感に配慮している。入浴拒否がある場合は、入浴時間を変更するなど、個々にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はもとより昼間の時間帯にあっても入居者が休息できる時間を確保するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の服薬管理指導を活用し、薬の情報もカルテに記載しスタッフが把握できるようにしている。また身体状態の変化があれば主治医、薬剤師と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を参考に一人一人にあったレクリエーションや個別ケアを実践することにより生活にメリハリをつけ、施設での役割や生きがいを見いだせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺地域への散歩などで社会とのつながりを持ち、心にゆとりを持った生活を送る事が出来るように取り組んでいる。	事業所では、気候のよい日には、近隣の散歩や敷地内での日光浴など、戸外で気持ちよく過ごすことができるよう支援している。感染症の流行下においても、ドライブバスを活用し、少人数で馴染みの場所に出かけるなど、本人の希望にそった外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染対策の為、買物バスを行うことが出来なかった。施設外にある公衆電話を利用するときに小銭をもってかけていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	散歩がてら老人保健施設まで行き、公衆電話で家族との会話を楽しむことができる。手紙の書ける方は希望があれば手紙のやり取りを支援していた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長としての暮らしを提供できるように、トイレの場所や背丈の低い方でも場所が分かるように表示をしたり、アイデアを出し合ってケアをしている。	共用空間には、ソファや畳のスペースを設置し、利用者一人ひとりが好きな場所で過ごすことができるようにしている。ユニット間は区切らず、自由に行き来することができるようにしている。壁面には、行事の写真や利用者の作品を飾り、季節感を感じることができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様のコミュニティがあり、それに配慮しながら各々がゆったり過ごせるように家具を配置するなどの工夫をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用していた生活用品や趣味の者を持って来ていただいたり、レクリエーションで作った物を飾り居室が安心できる空間になるように支援している。	居室には、テレビやタペストリー、家族の写真など、利用者の馴染みのものを持ち込んでもらっている。入口に暖簾をかけるなど、一人ひとりのプライバシーにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面においてはインシデント・アクシデントレポートを分析、共有し個別に安全対策が行えるようにしている。また、ミーティングやケア会議でも個別に安全対策を話し合っ安全な環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念・三訓を唱和し、スタッフが同じ意識の下でケアを実施することが出来るように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナが蔓延し、地域との交流が出来なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防のため、広報誌を地域に配布するのみ行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や、ご家族、包括支援センターの皆さまにオンラインで参加していただき運営委員会を行った。様々な意見をいただきサービス向上に活かした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ふれあい三野新聞を発行することにより、当施設の取り組みを報告し、より密接に関わってゆける関係性になるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や身体拘束廃止委員会にて身体拘束に関する知識と廃止への意識付けを行っている。また、委員会では定期、随時に身体拘束廃止への話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的勉強会を開催しスタッフに虐待についての勉強の機会を設けている。勉強会資料は全員に配布し虐待についての意識向上を図っている。入社時のオリエンテーションでも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を行い最新の法制度について勉強する機会を設けている。後見人や保佐人と緊密な連携をとるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者様とご家族様に対して契約内容の説明を行っている。介護保険制度が改正した際には説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の連絡を意見交換の場としている。利用者様には日常生活においても常に要望を気軽に伝える事が出来る環境作りに努めている。また、意見箱を設置し幅広く意見が集まるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティングにて、スタッフの意見を吸い上げて返答し反映させている。良い意見は管理者より経営者に相談し施設運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職とスタッフが面談し、業務上生じる悩みや職場環境の改善について話し合う機会を設けている。また、週一回のミーティングでも職場環境についての意見を吸い上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を行ったり、法人内外の研修に参加することでスキルアップの機会としている。また、外部研修には補助制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で施設連携会議があり、そこでの情報共有や課題の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて本人様やご家族様への聞き取りを行い、入居後の生活についての不安を取り除くよう努めている。また、入居後は介護支援専門員と担当スタッフによりニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・介護支援専門員を中心に、ご家族様と共に入居者の支援をしていくとの意識の共有を図り些細なことでも話せる信頼関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった時点で入居者様の身体・精神状態の把握に努め、管理者と介護支援専門員を中心にどのような支援方法やサービスが望ましいか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と世間話や昔話をする時間を持つなど、スタッフは意識をして入居者様とのコミュニケーションを図り感情の共有やニーズの把握に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当スタッフから買い物や、散髪、衣類の購入の為にご家族に連絡する際に、入居者様の最近の様子や生活状況をお伝えしている。ケアプラン作成時にご家族の意見を取り入れるよう情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様とご家族の手紙のやり取りなどの補助を行ったり、ドライブバスにてなじみの場所の景色を楽しんで頂いた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや雑談など入居者様同士のコミュニケーションを大切にしている。また、畑仕事や洗濯など生活の場で入居者様同士が積極的に関わる機会があり、スタッフは交流を支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居者様とご家族が落ち着かれるまでは、相談に応じメンタルのケアや実生活での不安の解消に努めている。また、退所後の利用機関にも利用者の同意を得て情報提供が出来るようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活や生活歴を入居者様やご家族から聞き取りする。また、日頃の様子からその方の意思や意向を推測しケアに当たっている。その情報はスタッフで共有し対応している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や契約時などのご家族様からこれまでの生活状況を情報収集している。また、利用機関があればそちらからの情報も同様に収集しケアに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活の情報はカルテに記載し全スタッフが把握し共有できるようにしている。朝礼や終礼、ノートで申し送りを行い共通理解の下で支援できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族とのコミュニケーションの中で得た情報で御本人が望む暮らしを提案し、それをケアプランに盛り込むよう努めている。また、その計画はご本人やご家族に説明し理解・同意を得ている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の情報は昼夜共カルテに記載し全スタッフが把握し共有できるようにしている。またケア会議にも材料として用いている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の状況に応じて、送迎や通院などの対応を行えるような体制をとっている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染対策の為、地域との交流は出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の希望の病院に受診できるように支援している。入居前に協力病院への通院の希望があればかかりつけ医の引継ぎを支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護で看護師との連携し健康管理や異常の早期発見が出来るようにしている。また訪問看護での内容を全スタッフが共有できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供はもとより入院中も病院と連携し状態把握や入居者様やご家族の相談に応えることができるようにしている。また、病院関係者とも密に連絡しスムーズな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の指針を説明。また重度化が進行した場合、ご本人やご家族の意向に沿った最善のサポート体制がとれるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに勉強会を行うとともに、応急処置や緊急時対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、災害時BCPを作成し定期的に災害訓練を行っている。また、消防署と連携し、初期消火や災害時の対応、通報装置について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		プライバシーを尊重し、居室内やトイレ、入浴などは特に他者の目がふれないように気を付けている。また、プライバシー保護について職員同士で話し合う機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		アットホームな雰囲気づくりを行い入居者様が希望や要望を伝えやすい環境になるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		グループホームならではのゆったりとした時間の流れがあり、入居者様がそれぞれのペースで生活できる空間づくりを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		各担当者が中心となって入居者様の好みやご家族から以前に使用していた衣類などを持参して頂き、身だしなみを楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		入居者様がいらっしゃる目の前で調理をする事により調理に参加して頂く雰囲気づくりを心掛けている。食事も個々の好みに合わせアレンジをくわえて楽しんで食べて頂けるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		管理栄養士の作成した献立で栄養バランスは保てており、食事摂取量や水分量、体重の変化などを記録し、主治医とも連携し個別の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		起床時と毎食後に口腔ケアを行っており、その方の状況によりスポンジブラシを使ったりしている。また、夕食後に入れ歯の洗浄を行い清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況や尿量、排泄パターンに応じた個別のケアを実施しており、身体の変化や残存能力の変化に応じた排泄ケアの見直しや改善を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表の活用や1日の活動量を増やし自然排便ができるようにサポートしている。それでも排便が難しい方は主治医と連携し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者様一人一人の希望を聞き1週間単位でのスケジュールを組み入浴を行うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はもとより昼間の時間帯にあっても入居者様が休息できる時間を確保するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の服薬管理指導を活用し、薬の情報もカルテに記載しスタッフが把握できるようにしている。また身体状態の変化があれば主治医、薬剤師と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を参考に一人一人にあったレクリエーションや個別ケアを実践することにより生活にメリハリをつけ、施設での役割や生きがいを見いだせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺地域への散歩などで社会とのつながりを持ち、心にゆとりを持った生活を送る事が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染対策の為、買物バスを行うことが出来なかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	散歩がてら老人保健施設まで行き、公衆電話で家族との会話を楽しんでいた。手紙の書ける方は希望があれば手紙のやり取りを支援していた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の延長としての暮らしを提供できるように、トイレの場所や背丈の低い方でも場所が分かるように表示をしたり、アイデアを出し合ってケアをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様のコミュニティがあり、それに配慮しながら各々がゆったり過ごせるように家具を配置するなどの工夫をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用していた生活用品や趣味の者を持って来ていただいたり、レクリエーションで作った物を飾り居室が安心できる空間になれるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面においてはインシデント・アクシデントレポートを分析、共有し個別に安全対策が行えるようにしている。また、ミーティングやケア会議でも個別に安全対策を話し合っ安全な環境作りに努めている。		